

平成 30 年 9 月 12 日現在

機関番号：34316

研究種目：基盤研究(B) (海外学術調査)

研究期間：2013～2017

課題番号：25300041

研究課題名(和文) タジキスタン拝火教遺構の発掘調査及び阿弥陀仏の起源としてのミトラ神についての研究

研究課題名(英文) Excavation survey of Zoroastrian remains in Tajikistan and a study on the Mithra God as the origin of Amida Buddha

研究代表者

蓮池 利隆 (HASUIKE, Toshitaka)

龍谷大学・仏教文化研究所・客員研究員

研究者番号：50330022

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 11,400,000円

研究成果の概要(和文)：大乘仏教経典成立の背景にはインド文化の他にイラン文化も存在した。特に、ガンダーラ地域ではゾロアスター教の影響があった。クシャーン王朝は紀元後1世紀から3世紀までガンダーラを中心に統治したが、この王朝のふるさは中央アジアのタジキスタン・ウズベキスタン周辺であった。その地域の宗教はゾロアスター教であった。この研究では、タジキスタンの遺跡発掘によって、イスラーム化前の中央アジアにおけるゾロアスター教の存在を検証した。ゾロアスター教と仏教の混合によって阿弥陀仏信仰が成立したことを明らかにすることができた。その宗教的交渉においては、インドとイランに共通する神格であるミトラ(ミフル)が仲介となった。

研究成果の概要(英文)：On the background of the formation of sutras of Mahayana Buddhism, Iranian culture also existed in addition to Indian culture. Especially, in the Gandhara area it should be considered that there was influence of Zoroastrianism. The Kusan Dynasty governed mainly in Gandhara from the 1st century AD to the 3rd century AD. And the homeland of this dynasty was around Tajikistan and Uzbekistan in Central Asia. The religion in that area was truly Zoroastrianism. In this study, we examine the existence of Zoroastrianism in Central Asia before Islamization by excavation of Tajikistan ruins. I revealed that the Amida Buddha faith was established by the mixture of Zoroastrianism and Buddhism. In that religious negotiation, Mitra (Mihr), a common deity of India and Iran, mediated.

研究分野：仏教考古学

キーワード：阿弥陀仏信仰 タジキスタン ミトラ(ミフル) ゾロアスター教 クシャーン朝

### 1. 研究開始当初の背景

当該研究の初年度にあたる2013年度までの7年間にわたってカラ・イ・カフィルニガン遺跡での発掘調査を実施してきた。それによって世俗的空間である城塞内における仏教とゾロアスター教の交渉の経緯を明らかにしてきた。しかし、タジキスタン側研究者の要請により、城塞内の発掘調査を初年度で終了、第二年度より新たな発掘現場としてギサル郊外ブストン村の僧院址と想定されている遺構を発掘することとなった。城塞内の仏教遺構が世俗的空間に位置する大乘仏教の遺構であったのに対して、石窟遺構を擁する僧院址は部派仏教の特徴を示すものと考えられる。特に、幅3m、高さ2mのかまぼこ型石窟遺構は西域北道の石窟遺構と構造上類似するものであり、石窟寺院のシルクロード一帯への伝播を考察する上においても貴重な資料となると考えられる。

### 2. 研究の目的

研究代表者蓮池がタジキスタンにおいて実施した現地発掘調査は3次にわたり、研究課題名も第一次では「中央アジア(タジキスタン)における仏教と異思想の交渉に関する調査・研究(課題番号17401023)」、第二次では「タジキスタンにおけるゾロアスター教遺跡の発掘調査及び仏教との交渉についての研究(課題番号21401027)」、第三次では「タジキスタン拝火教遺構の発掘調査及び阿弥陀仏の起源としてのミトラ神についての研究(課題番号5300041)」であった。課題名の変化が示すように、次第に研究範囲を絞って、ミトラと阿弥陀仏の関連を検証することに努めてきた。それは具体的な出土資料をもとにして研究を進める上で必然的方向性であったように思う。しかし、文献研究との総合的検討という点から言えば、第一次で掲げた、「中央アジア(タジキスタン)における仏教と異思想の交渉に関する調査・研究」という広範な視野に立ち返る必要があるであろう。すなわち、ゾロアスター教のミトラ信仰が阿弥陀仏の起源のみにとどまらず、大乘仏教全般に関して大きな影響力をもっていたことを検証するのである。例えば、初期大乘経典『華嚴経』の構成には、『アルダー・ウィラーズ・ナーメ』に描かれる天界への上昇と地上への帰還というテーマとの関連性を指摘することができる。さらには、中期大乘経典の唯識・如来蔵思想など、これらの教義についても検討していく余地があると考えられる。ミトラ神を手掛かりに、大乘仏教とゾロアスター教の交渉の全容を明らかにすることが最終的な目的である。

### 3. 研究の方法

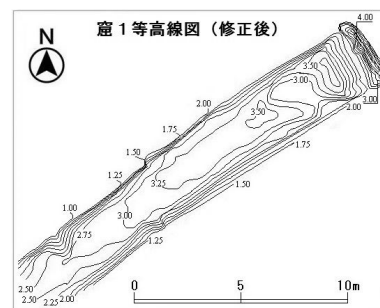
阿弥陀仏信仰の拠り所である『無量寿経』を始めとする大乘仏教経典の成立には、その経典成立当時の文化的・宗教的背景が大きく影響している。特に、庶民間に仏教が浸透し

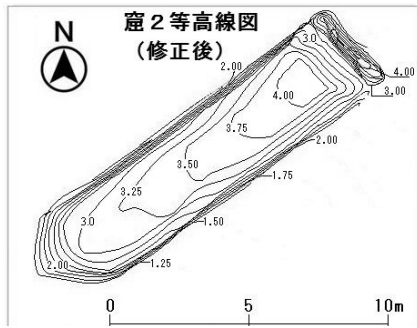
ていくためには世俗的習俗との交渉が不可欠のものであった。しかし、庶民の習俗は文献として残されることなく、仏教経典にも明確な形でその交渉の経緯は保存されていない。ただし、詳細に経典を検討することによってその痕跡は散見できるものと考えられる。それも、習俗を十分に意識しつつ精読するなかではじめて見出される痕跡である。当該研究ではその具体的方法としては、まず、遺構や出土品による知見によって、ゾロアスター教の存在を確認すること。次に、ゾロアスター教文献に記述された内容と考古学的知見とを総合して、それらに基づいて大乘仏教経典を精査するのである。

### 4. 研究成果

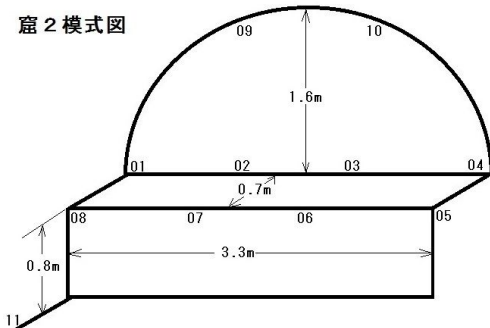
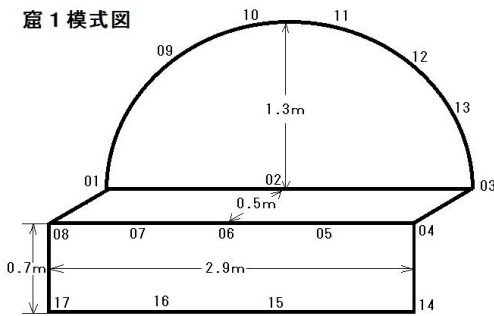
(1)カラ・イ・カフィルニガン遺跡出土の文物についての図録を作成した。2014年にタジキスタンで出版された『カライカフィルニガン遺跡カタログ』(ISBN978-99947-39-78-3)に基づき、一部収録を変更して再編した。調査報告書第3巻『ミトラ仏と観貨邏の仏教3』の巻頭カラーページとして出版した。図録に付記した遺物番号はタジキスタンのカタログ記載番号であり、今後の遺物照会の際にも利用できるように配慮した。遺物の種類(例:テラコッタ・土器・金属製品・石器・貴石など)によって分類し、出土年度も記載した。これによって調査報告書と対照することで出土状況も知ることができる。

(2)石窟遺構の詳細な測量を実施し、調査報告書第3巻『ミトラ仏と観貨邏の仏教3』に具体的な測量過程と図面を記載した。窟遺構は、タジキスタン首都ドシャンベの西方30Kmほどにあるギサル城塞址の南の郊外に位置するブストン村の丘陵地にある。下図の右側が窟1、左が窟2である。





上図等高線はトータルステーションで測定した観測値を基に作図したものである。また、両窟のニッチ構造（壁龕）の模式図を以下に挙げる。



半円形龕部分の前面に奥行 50~70cm の壇が設けられている。この形状はシルクロードの西域北道の石窟寺院の後室ときわめて類似している。その典型的意匠としては釈迦涅槃を表す図像や塑像が置かれることが知られているが、このニッチ構造にも涅槃像が安置されていた可能性が高い。

(3)出土文物による知見から得られた研究成果として、現在までに収集した遺物図像データから中央アジアの宗教的背景を明らかにすることができた。特に、研究課題に掲げたミトラ神の存在は大きく、仏教と習合する中で、様々な形でシルクロードを経て日本まで伝来したことを検証することができた。一例として、3Dスキャナーで測定したデータから復元した図像によって、毘沙門天(多聞天)の図像学的展開を確認することができた。検証に使用した出土資料(「蓮池利隆のページ(<http://hasuike.my.coocan.jp/>)」掲載の『ミトラ仏と観貨遷の仏教2』pp.127-145を参照)は、一つは2010年出土の完形ではあ

るものの、身体の部分に斜めに亀裂があるテラコッタ(遺物番号 K 1194-2011)である。おそらく、型による成形の際に皺状に溝が残ったものと思われる。頭部は天冠を付けた菩薩のような面差である。もう一つは2013年度出土の頭部を欠くテラコッタ(遺物番号 K 1194-1267)で、この二体の3D画像を使い、カット・ペースト機能を用いて2010年度出土テラコッタの頭部を切り取り、80%縮小した後、2013年出土テラコッタの頭部としてペーストした。その全体像は、天冠を戴いた頭部、胸と胴回りには鎧が表現され、腰にはベルトを締め、右手に炎の上がる携帯用拝火壇(マジマル)を掲げ、左手には三叉の聖杖を執る。この姿は法隆寺所蔵の四天王、その中でも毘沙門(多聞)天と一致する。



これは、宮崎市定博士の『毘沙門天信仰の東漸に就て』と題する論文中、「Mithra は千の耳を有する神なのである。・省略・即ち Mithra は万の眼を有する神であり、国家を護持する神であり、生長を司る神である。広目、持国、増長はその各々の徳を謂うに外ならない。四天王像が多く光背に火焰を有し、殊に毘沙門が光塔を有するのも拝火教の遺物ではなかろうか。」との指摘の正しさを証明するものである。

(4)テラコッタの配布用レプリカを作成した。菩薩像の一部補正を加えたレプリカを作成した。工程としては、先ず3Dプリンターで作成したプラスチック製のレプリカを加工する。薄れた輪郭、例えば眉根やまぶた、唇などをヤスリ等で刻む。また、鼻梁などの磨滅した部分はエポキシ樹脂系のボンドで盛りあげ、成形する。この補正済みプラスチック・レプリカから工芸用簡易陶土(ヤコ・オブン陶土「紅陶」瀬戸産蛙目粘土使用)を使用して型を作成する。焼成加工すれば何度も塑像を成型することが可能となる。





レプリカの補正版



補正版からの型

(5)大乘仏教經典に散見できるゾロアスター教の痕跡については、当該研究の対象であった阿弥陀信仰中にそれを見出すことができたと考えている。具体的には、『無量寿經』所説の疑城胎宮、すなわち、阿弥陀仏の救いに疑いを持った衆生が蓮華の蕾の中に留置され一定の期間を経なければならぬという教説はゾロアスター教のハミスタガン（留置天）に起源をもつものと推測した。

また、ゾロアスター教のミトラ信仰が阿弥陀仏の起源のみにとどまらず、大乘仏教全般に関して大きな影響力をもっていたことを明らかにすることができた。例えば、中期大乘經典の唯識・如来蔵思想など、特に『涅槃經』にはそれまでの仏教教義と相違する「常・楽・我・淨」の四徳がある。これらの教義についても検討していく必要がある。中央アジアにも流布していたゾロアスター教の宇宙觀・真理觀が仏教の真如縁起を育む要因であったと考えられるのである。

以上のような観点から『涅槃經』を精読していくと、随所に仏教以外の概念が示されていることにも気づかされる。梵行品から二、三の例をあげれば、大乘を誇る衆生を断善根（一闍提）として排斥する文脈の中で、害獸・害虫という衆生を殺害することを容認している。これはゾロアスター教において、破壊靈の創造によるフラフスタル（外をなす生き物）を駆逐することが宗教的善として肯定されていることと関わるように思われる。

また、ゾロアスター教の葬送儀礼である曝葬（特に遺骸を鳥獸に食わせ遺骨を收拾する葬法）を髣髴する記述として、釈迦牟尼仏が前世において食人鬼を折伏するために巨大な鬼神となって制圧し、殺生戒を授けた話が出てくる。食人鬼たちは命を保つためには人肉を食わねばならないと訴えたのに答えて、寿命尽きた人間の肉を食らうことを許したとある。具体的には、野辺の送りでもたらされた臨終の人を食らうというのである。興味深いことに、この逸話は常行堂の摩多羅神に関わるものとして引用される『大日經疏』の一節と内容的に一致する。摩多羅神は、「ミトラと阿弥陀」にも論じたように、ミトラ神を起源として同起源の阿弥陀仏と表裏一体の形で日本に伝来したものと考えられが、その摩多羅神が念仏行者の身体を食らうことで浄土往生が定まるといふ伝承に関わって

『大日經疏』が取り上げられている。臨終の人の肉を食らうという趣旨はゾロアスター教の習俗が形を変えて継承されたものと推測できる。

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計6件)

蓮池利隆

『梵文無量寿經語彙集』とその活用 - 本願文・成就文・胎化得失など -、中央仏教学院紀要、査読無、第28号、発行年：平成28（2016）年、pp.1-13

佐野東生

On the Translation of Two Letters of Imam 'Alī in Nahj al-Balāgha Iranian Journal for the Quranic Sciences and Tradition、査読無、49-1 巻、発行年：平成28（2016）年、pp.41-55

窓場真太郎、岡田至弘

大谷探検隊収集の植物標本のデジタルアーカイブと復元 龍谷大学世界仏教文化研究センター 国際シンポジウム、口頭発表、龍谷大学 査読無、発行年：平成28（2016）年、

岡田至弘

不動明王像の截金復元、『聖護院門跡の名宝：特別展』龍谷ミュージアム、龍谷大学刊、査読無、発行年：平成27（2015）年、pp.1-45

平田健人、岡田至弘

マルチメディアアーカイブによる案内システムの構築、情報処理学会、人文科学とコンピュータシンポジウム論文集、査読無、vol.15、発行年：平成27（2015）年、pp.71-76

金恵卿、岡田至弘

龍谷大学所蔵古料紙研究方法-韓国の刊本を中心に、国文化財保存科学会研究報告、韓国全州市国立博物館、査読有、第40回韓、発行年：平成26（2014）年、pp.19-22

〔学会発表〕(計4件)

佐野東生・野元 晋

アリー研究の一視座、イラン研究会、大阪大学、発表年：平成28（2016）年

佐野東生

シーア派聖典『雄弁の道』にみる倫理 アリーの2通の書簡より、日本宗教学会、創価大学、発表年：平成27（2015）年

坂本昭二、岡田至弘

古文書料紙の科学分析データベースの構築に向けて、情報処理学会研究報告、人文科学とコンピュータ研究会報告、大阪国際大学守口キャンパス、発表年：平成27(2015)年

佐野東生  
シ-ア派聖典「雄弁の道 ( Nahj al-Balaghah)」翻訳研究の経過報告、イラン研究会、東京外国語大学府中キャンパス、発表年：平成27(2015)年

〔図書〕(計10件)

蓮池利隆  
出版社：ちよ古っ都製本工房、ミトラ仏と観貨邏の仏教3、発行日：2018年1月16日、頁数：222頁

蓮池利隆  
出版社：ちよ古っ都製本工房  
ミトラ仏と観貨邏の仏教1(改訂増補版)  
発行日：平成30(2018)年、頁数：228頁

蓮池利隆  
出版社：ちよ古っ都製本工房  
ミトラと阿弥陀  
発行日：平成29(2017)年、頁数：116頁

蓮池利隆  
出版社：ちよ古っ都製本工房  
ミトラ仏と観貨邏の仏教2  
発行日：平成19(2017)年、頁数：161頁

蓮池利隆  
出版社：ちよ古っ都製本工房  
アルダー・ウィラズ・ナーメ 敬虔なるウィラズの冥界旅行  
発行日：平成28(2016)年、頁数：272頁

蓮池利隆  
出版社：ちよ古っ都製本工房  
波斯版・地獄八景冥途遣  
発行日：平成28(2016)年、頁数：164頁

蓮池利隆  
出版社：ちよ古っ都製本工房  
梵文無量寿経語彙集  
発行日：平成28(2016)年、頁数：208頁

佐野東生・野元晋・高橋圭・山口元樹訳  
出版社：『雄弁の道』研究所(イラン)  
統治者の鑑 『雄弁の道』より  
発行日：平成28(2016)年、頁数：101頁

佐野東生・野元晋・高橋圭訳  
出版社：『雄弁の道』研究所(イラン)  
我が子よ、かくあれ 『雄弁の道』より聖アリーの手紙第31番和訳  
発行日：平成27(2015)年、頁数：132頁

B・サイドムロド、蓮池利隆共著  
出版社：

「  
」(マステル・プリント)

2007 - 2013(カイ・カフィルニガン 2007 - 2013出土品図録) ISBN 978-99947-39-78-3  
発行日：平成26(2014)年、頁数：74頁

〔産業財産権〕  
出願状況(計0件)  
名称：なし  
発明者：なし  
権利者：なし  
種類：なし  
番号：なし  
出願年月日：なし  
国内外の別：なし

取得状況(計0件)  
名称：なし  
発明者：なし  
権利者：なし  
種類：なし  
番号：なし  
取得年月日：なし  
国内外の別：なし

〔その他〕  
ホームページ等  
タジキスタン国立博物館ホームページ  
収蔵品を年代別に分類・解説  
<http://www.afc.ryukoku.ac.jp/tj/>  
蓮池利隆のページ  
調査報告書や研究成果を掲載  
<http://hasuike.my.coocan.jp/>

## 6. 研究組織

(1)研究代表者  
蓮池 利隆 (HASUIKE, Toshitaka)  
龍谷大学・仏教文化研究所・客員研究員  
研究者番号：50330022

(2)研究分担者  
岡田 至弘 (OKADA, Yoshihiro)  
龍谷大学・理工学部・教授  
研究者番号：30127063

佐野 東生 (SANO, Tosei)  
龍谷大学・国際文化学部・教授  
研究者番号：60351334